

幼稚園だより

7月号

ちよだ



令和7年6月30日
千代田区立千代田幼稚園
園長 須藤 敏之

大人にとっての3か月、園児にとっては何か月？

園長 須藤 敏之

梅雨入りの頃から蒸し暑い日々が続いており、梅雨明けが待ち遠しい時節となりました。

1学期も、あっという間に3か月が経ちました。

3歳児ばら組の子どもたちは、4月当初は園生活に不安そうな表情を見せていましたが少しずつ園の生活リズムに慣れ、笑顔で登園できるようになってきました。先生や友達との関わりが少しずつ増え、身の回りのことに挑戦する姿や、最近では、「◎◎ちゃんと一緒に遊ぶ！」と自分から友達に声をかけて遊ぼうとする姿が見られるようになってきました。

4歳児のさくら組の子どもたちは、自分の気持ちを言葉で伝えられるようになり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わっています。ごっこ遊びや七夕飾りの製作活動にも、意欲的に取り組んでいます。

5歳児のすみれ組の子どもたちは、お兄さん・お姉さんらしい頼もしさが増し、下級生のお手本として頑張っています。話をよく聞いて行動する姿や、自主的に活動に取り組む姿も見られます。6月20日に行われた「あじさいのお茶会」では、裏千家の影山先生から教わったお点前に厳かに取り組む姿が見られ、その静けさに感心させられました。

このように、この3か月間で子どもたちは驚くほどの早さで成長しているように感じます。

ところで、私たち大人にとっての「あっという間の3か月」は、3・4・5歳児の子どもにとっては、一体どの位の期間に感じられているのでしょうか。

フランスの心理学者ポール・ジャネー・ジャネーの法則によれば、時間の心理的な長さは年齢に反比例し、子どもにとっての時間は大人に比べて非常に長く感じられると説明しています。具体的には、5歳の子どもにとっての1年間は、人生の20%を占めるため、35歳の大人にとっての3か月は、3歳から5歳の子どもにとっては約1年半から2年に相当する感覚になるそうです。どんどん成長するのも頷けますね。

忘れかけていた子どもの頃（私）をよく思い出してみると、確かに1日が長かったなあと思います。大人にとっての「あっという間の3か月」は、子どもたちにとっては「長い長い3か月」になることを改めて認識し直したいと思います。

これからも、子どもたちの健やかな成長を見守りながら、安心して楽しく過ごせるよう、あっという間ではない1日1日を大切にしていきたいと思います。

7月も、皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。



千代田幼稚園のホームページもご覧ください